



奉仕を通じて平和を

山形南ロータリークラブ会報

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2800

RI会長/田中 作次 2800地区ガバナー/和田 廣 ガバナー補佐/武田 秀則
 会長/川合 賢助 幹事/金田 亮一
 クラブ会報委員会 委員長/神崎 祐子
 委員/堀 是治 阿部 浩一 相沢そのみ 坂入 文人 浅野 裕幸

第1978回例会

2013-1/22 (火) 天気 (晴れ)

□例会場：ホテルキャッスル

□司会進行 (SAA)：伊勢 和正君

□点 鐘：PM12:30 川合 賢助 会長

□ロータリーソング：「我等の生業」

会長挨拶

— 大寒も過ぎて —



1月は睦月と称します。これは親しい友人らと互いに親睦交流を深め、仲むつまじくする月ということから基因しています。

1月20日は、極寒の大寒でした。今日(1/22)は旧暦のまだ12月11日ですから、まだまだ寒さ、雪は続くことになります。でも、2月3日は節分。2月4日の立春は、旧冬と新春との境目にあたり少しずつですが爽やかな春が近づいてまいります。そして、2月10日旧暦の正月を迎えます。風邪をひかずに元気に乗り越えて頂きたく心から思います。

先週の1月15日第4回クラブ協議会を開催致しました。前半の事業業績と後半の計画について経過報告をして戴きました。それぞれ委員会ごとにご活躍賜り、とりわけ充実したプログラムに基づいて出席率100%を継続・維持していることに心から感謝申し上げます。

国政・県政共に新たな政策のもと、飛躍することを願っているところですが、我々ロータリアンは大いに御提言すべきことと思えます。よろしくお願い致します。



幹事報告

金田 亮一 幹事

1. 下期の会費納入の期限が1月末日となっております。まだ納入なさっていない会員の方は早めに振込いただけますようお願いいたします。
2. 3月2日(土)に行われる第5ブロックI.Mのご案内が昨日付で届いていらっしゃると思いますが、2月12日までの出席確認とさせていただきます。早めに確認して頂き、提出をお願いいたします。以上

ポールハリスフェロー表彰
佐々木 吉嗣 君



委員会報告

■ニコニコBOX 伊藤 誠君

武田 和夫 君 ロータリーの国際協議会に出席して参りまして新しいテーマを戴いて来ました。

伊勢 和正 君 久しぶりの出勤です。どうぞよろしく。
佐々木吉嗣 君 ポールハリスフェローを戴きました。有難うございます。



1月22日の
食事です。

例会場/ホテルキャッスル 例会日/毎週火曜日 12:30~13:30

事務所/山形市十日町1-1-26 歌懸稲荷神社 社務所ビル2F Tel.023-632-7777 Fax.023-624-5200

山形市内 例会日案内

月曜日
山形西 山形イブニング

火曜日
山形中央

水曜日
山形

木曜日
山形北

金曜日
山形東



「仏教について」 - 修証義 -

土田 貴英君

曹洞宗の開祖道元禪師の著書「正法眼蔵」を中心に引用し、明治23年に編纂されたものです。經典は、全5章3704文字から成り立ち、日本語によるわかりやすい經典であります。今日はこの教本を題材に致しまして講和をさせて頂きたいと思っておりますので宜しくお願い致します。

「生を明らかに死を明らかにするは仏家一大事の因縁なり。」

と冒頭に書いています。この言葉は正に仏の教えの根本、根源を説いているのであります。なぜワタクシは生きているのか？ワタクシが死ぬということとは、どういうことか？

ワレワレが生きて、ワレワレが死ぬ これは他人事ではありません。真直ぐに自分自身と向き合えよ、ということなのです。生きていることを明らかにして死ぬことを明らかにするこれ以上大切なことは無いと断言できます。更に「生死の中に仏あれば生死なし、但生死すなわち涅槃と心得て、生死として厭うべきもなく、涅槃として欣うべきもなし、是時初めて生死を離るる分あり、唯一大事因縁と究尽すべし。」

とあります。これは、この世の中がそのまま仏の世界（涅槃）であれば苦しみはありません。この世界と仏の世界（涅槃）が同じものと心得て、苦しい人生を嫌がることなく、素晴らしい仏の世界を追い求めることもないとき、初めて悩みを離れることができます。

「生きていること、死ぬこと、」をワレワレの一番大事な問題として考えなければなりません。私達には「死」というどうしても避けられない事象があります。うすぼんやりですが確実にその死に向かって歩を進めてくと言っても過言ではありません。つまり、このいま生きている生に対して必ず死というファクター（要因）が内在しているのです。仏教では今私達が生きている人生のことを現在世と申します。これは私たちがオギャーと生まれて、亡くなるまでの一生のことを言います。これはお役所的に言えば出産届けから死亡届けまでとなるわけですが、仏教ではその様には人生を考えません。

では、こういった考え方が仏の教えかと申しますと、ワレワレの命というものは限りなく前の世に遡って続けられてきたのでありまして、この過ぎ去った人生のことを過去世と云い、生まれ変わり、死に変わり、限りなく永い人生を続けていると教えているのでございます。「故に經典の中には過去は無量劫であると。」私たちは、一人一人とても数えきれない程の過ぎ去った人生を歩んできたと言っているのです。このことと同様にワレワレがこの人としての人生を終えれば全てが無くなり、無に帰すのではなく、次の来るべき人生があるということも經典には書いてあります。来るべき人生でありますから、未だ来ない世界であり、これを「未来世と言います。この未来世も「盡未來際」と申しまして、未来の時間の際を盡すという意味になります。

ところが未来の時間にも際限がありませんから、その際限のないところの際を盡すまで、我らの魂は存続するとも言えるのです。ということは、私どもの個人の生命というものは過去無量劫の昔から現在に至り、現在より盡未來際に亘って無限の生命を続けて行くということになります。こうして初めて（かん断）なく流れる生命の今、つまり自分というものの存在が見え始めてきます。

「人身得ること難し、仏法値うこと希れなり、今我等宿善の助くるに依りて、已に受け難き人身を受けたるのみに非ず、遇い難き仏法に値い奉り、生死の中の善生、最勝の生なるべし、最勝の善身を徒らにして露命を無常の風に任すること勿れ」

今ここでこういった法話会なども行えるのは前世で行った皆様の善根功德に時節が到来し、春に花が咲くように自然の理として、この法話の場が

現成しているということでございます。更に言うならば、ここに来ている皆様は何度も生まれ変わり死に変わりしている存在ですが、その中でも人間の身分に生まれ、仏の教説を聞き、この場で一緒に仏法を学んでいるわけですから、最も優れた人生ということになります。この善き恵まれた人生を無常の風に任してはいけません。

「無常憑み難し、知らず露命いかなる道の草にか落ちん、身これ私に非ず、命は光陰に移されて暫くも停め難し、紅顔いづくへか去りにし、尋ねんとするに蹤跡なし、熟つら観ずる所に往事の再び逢うべからざる多し、無常忽ちに到るときは国王大臣親暱従僕妻子珍宝たすくる無し、唯独り黄泉に趣くのみなり、己れに随い行くは只是れ善悪業等ののみなり。」

ここでいう無常とは日本的な厭世的でノスタルジックな無常ではなく、もっとダイナミックに変転する世界、変化する世界を表しているわけですが、その中であつてもワタクシという命の何とチツポケなことでしょうか。露のような命なぞいつ消えるか分かりません。この私の命とは私だけのものではなく、大自然の一部であり、私という存在が大自然そのものであるということを知らなければなりません。生老病死、我々は一切皆苦の世界に生きています。まさしく光陰矢のごとであり、若い頃の自分の姿などはどこをみても影も形もありません。よく考えてみれば過ぎ去った過去は二度と現成せしめないし、自分が死に直面した時には何も頼るものはありません。ただ一人黄泉の国に向かうのであり、そこに付随するのはただただ己が今まで行ってきた善行と悪行ばかりであると。

「今の世に因果を知らず業報を明らめず、三世を知らず、善悪を弁えざる邪見の党侶には群すべからず、大凡因果の道理歴然として私なし、造惡の者は墮ち修善の者は陞る、毫釐も忒むざるなり、若し因果亡じて虚しくらんが如きは、諸仏の出世あるべからず、祖師の西來あるべからず。」

この今の世の中に因果応報を知らず、先ほど述べた過去無量劫、今生がされている自分自身、盡未來際の際、即ち三世を信用しようともせず、善悪を分かっているが邪見な輩とは一緒に過ごすべきではありません。因果の律は必ずあり、本当に因果の律などあるのだろうか？などという私見を挟む余地など全くありません。もし因果の律を信じなければ、お釈迦様が生まれ、この仏教という尊い教えが、この場まで伝わってきた意味も無くなってしまいます。

「善悪の報に三時あり、一には順現報受、二には順次生受、三には順後次受、これを三時という、仏祖の道を修習するには、其最初より斯三時の業報の理を効い験らむるなり、爾あらざれば多く錯りて邪見に墮つるなり、但邪見に墮つるのみに非ず、惡道に墮ちて長時の苦を受く。」

「当に知るべし今生の我身二つ無し、三つ無し、徒らに邪見に墮ちて虚く惡業を感得せん、惜からざらめや、惡を造りながら惡に非ずと思ひ、惡の報あるべからずと邪思惟するに依りて惡の報を感得せざるには非ず。」

因果応報には三つあり、この世での行いの結果は、この世ですぐ受けることも、あの世で受けることも、さらにその次の世で受けることもあります。仏の生き方をしようとするならば、この因果応報を自らに省みて実践するのではありません。そうしなければよこしまな考え方に陥ってしまいます。そればかりでなく、安らぎを得られず悩み続けることにもなります。

惡業を惡業とも思わず、また、たとえ惡業を造ったところで、惡の報いなどあるものかと自分勝手なよこしまな考え方をしたとしても、惡業に対しての惡報を受けずに済むということは絶対に無いということです。

合掌

○本日出席・前回修正出席

出席率100%ありがとうございました。引き続きご協力お願いします！

	会員総数	出席義務会員数	出席会員数	出席率
本日	53名		37名	
前回修正	53名	50名	50名	100%
他クラブで メーカーアップ された会員	(中山) 武田 秀則 (山形) 武田 秀則 (山形北) 武田 秀則 (山形西) 大久保章宏 (山形イブニング) 相沢そのみ 寺崎 利彦 門脇 好広 鈴木 政康 阿部 薫 高梨 英吉 大久保章宏 伊勢 和正 青山治右衛門 阿部 浩一 長沢 一好			

土田 貴英君 今日のつゆやき

今日の卓話は
難しかったかなあ

